２０１６（平成２８）年度
法務研究科　法務専攻（法科大学院）Ｃ日程　入学試験問題
「　小　論　文　」
〈９０分〉
（注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。）

設問１

筆者のいう「二軍の四番」と「スーパーＡＤ」の異同について、それぞれを比較しつつ、10行程度で説明しなさい。

設問２

あなたの知る人（直接知っている人だけではなく、本、テレビ、ネット等を通じて知っている人でもいい）の中で、「二軍の四番」あるいは「スーパーＡＤ」と同じところがある人を挙げ、①その人のどのようなところが「二軍の四番」あるいは「スーパーＡＤ」に似ているのかを説明した上で、②その人について、あなたの思うところを論じなさい。

出典：伊集院光『のはなし し』（宝島社、2014年）

「二軍」の話

プロ野球団横浜DeNAベイスターズがまだそのチーム名を横浜ベイスターズと言った頃、野球界の新しい試みで、下部組織である二軍は湘南シーレックスと言った。日本のプロ野球の場合、読売ジャイアンツは二軍であっても読売ジャイアンツなのが普通で、この横浜とオリックスブルーウェーブの二軍のサーパス神戸だけがその方式をとっていた。球団旗やユニフォームも全く別のもので、スポンサーも別。

当時ベイスターズの一軍の看板選手だった駒田選手が極度の不振で二軍に落ちたときに、まさかそんなスターが二軍落ちするなんて考えてなかったのと、駒田選手がプロ野球でも有数の長身の選手だったために合うシーレックスのユニフォームが無かったというエピソードがある。

また、湘南シーレックスは、二軍でありながらも地域密着を掲げていたために毎年二軍だけのファン感謝デーを開催していて、温かい地元ファンの前で新入団選手たちが「一日も早くこのシーレックスのユニフォームを脱げるように頑張ります！」というのがなんとも奇妙な感じだった。

本題はこのシーレックスの監督をしていた日野茂氏に聞いた話。

たまに二軍でずっと四番を打っている選手がいる。チームで一番打撃が凄いから四番バッターなのだから、次に一軍に上がるのはこの選手で間違いないと思うのだが、一軍で怪我人が出たり、不振の選手が二軍に落ちてきても、この選手は二軍の四番のまま。そのまま引退したりもする。

「これはどういうわけなんですか？」と聞くと、日野氏は「そういうケースはよく有るんだよ、**二軍の四番**全員がそうなわけじゃないけど」と、前置きして教えてくれた。

よく打つから二軍の四番に抜擢されて、そのうち一軍からお呼びがかかる。だけど、一軍のレベルは高いから中々結果が残せなくて二軍に戻っちゃう。でも、いいものは持っているので二軍では再び四番、またお呼びがかかって一軍、代打で出るけど打てないで二軍に落ちる、を繰り返すうちに、自分でも「一軍では打てない」って思い込んじゃう。そうなると中々いい結果は出ない。なるほどなるほど、気持ちで負けちゃうわけね。

さらに興味深かったのは「二軍のピッチャーを打つには二通りある」という話。プロの選手にはなったものの二軍にいるということは、良い球も持っているが、悪い球もあるということ。ストレートは今すぐ一軍で通用するけどカーブはまだまだ、というピッチャーの得意なストレートをガンガン打つ選手と、カーブを投げるまで待って見逃さずに打つ選手の差があるのだと。どちらも二軍での成績は上がるのだけれども、後者が一軍に上がっても、一軍にはそういうレベルの球を投げてくるピッチャーは居ないからいい成績は残せないと。監督はそれを「二軍ズレ」と言った。なるほどなるほど。

お笑いにも似たところがあるかもしれない。ライブで受けるがテレビにお呼びがかからない。勿論ライブ第一主義という生き方はそれはそれで素晴らしいが、そうじゃないケース（自分ではテレビにいっぱい出たいけどお呼びがかからないケース）に、シモネタと放送禁止ネタとお客さんいじりと身内ネタがどんどん上手くなって、それが出来ないテレビでは「どうせ受けない」というマイナス思考におちいってしまい、より結果が出ないという。

この間、若手がたくさん出る、とあるお笑い事務所主催の小さなライブで見たのは、ネタの間のトークコーナーで「この間、スポーツジムに行ったら誰にあったと思います？ケチャップさんですよ！あのケチャップさんが体鍛えるなんてありえないでしょ！だから『どうしたんですか？』って聞いたら『ちゃうねん、村上にやれって言われたんや！』だって!?もうお腹痛くてお客さんどう思います？」っていうやりとり。村上さんもケチャップさんも知らないし、存在を知らないケチャップさんの、そもそもの人となりなんてわかるわけがない。ご丁寧にケチャップさんの部分ではモノマネも取り入れているご様子で、ケチャップさん関西のご出身らしい。けれど、常連のお客さんにはわかるようでそこそこウケてた。これぞ「二軍ズレ」なのだろうが、なんかもう一回りも二回りもして面白かった。この部分を誇張してコントにすると一軍入り出来るぞ！

「プロデューサー」の話

テレビラジオの番組制作現場には「プロデューサー」「ディレクター」「アシスタントディレクター」という職種があって、それがそのまま階級にもなっているわけだが、なんかその辺に疑問がある。

僕の場合、製作から密接にかかわっているようなテレビ番組はないのでラジオのほうの話になるが、ＡＤ→ディレクター→プロデューサーに上がっていく出世魚の如きこの図式が変だと思うのだ。

思うに、ＡＤとディレクターとプロデューサーのそれぞれの仕事は別だし、それぞれ向き不向きがあるのではなかろうか。

ディレクターに求められるセンスは主にその企画力演出力においてで、ここにこういう曲を当てれば伝えたい事が明確になるとか、素材のここととここをカットすれば面白いとか、この番組のこの役どころはあのタレントを起用すれば面白いということだろう。

対してプロデューサーは、こういう会社からこういう依頼があってそれをやるとこれくらいのお金が番組に入ってくるんだけどどうよとか、ディレクターの言っていた企画を現実的なものにするためにはどこのプロダクションを口説けばいいとか、この企画に向いているスタッフは誰と誰だから、というような役割だ。

細かいこだわりが要求されるディレクターに対して大局的な判断が要求されるのがプロデューサーで、まったく違う才能や性格を要求されるポストではないのか？

さらに、ディレクターの稚魚とされるところのＡＤも、実は全く別のスキルを持っているべき職種だと思う。主に誰でもできる使いっパシリのように思われるＡＤだがそれは間違い。特に大人数のスタッフを抱えるテレビ番組ならいざ知らず、三時間の生放送に一人ないし二人のＡＤしかいないラジオ番組では、そのＡＤのもつスキルでかなり番組のクオリティが変わる。

ディレクターのひらめきでインタビュー素材にＢＧＭを挿入することになるとする。ディレクターはＡＤに「映画の『ニューシネマパラダイス』の挿入歌っぽいバイオリンの曲をレコード室から持ってきて」と指令を出す。即座にドンピシャをダッシュで取ってこれるＡＤを実際に知っているが、彼は超一流のＡＤだ。『ニューシネマパラダイス』のサントラそのものを知ってるだけでも凄いのに「っぽい曲」だもの。もっと凄いときは「コンビニで美味しいもの買ってきて」という要求に、カレーまんとバナナを買ってきて頼んだディレクターに喜ばれたりしている。もはや超能力だ。

しかしそのＡＤ氏自身には「ここにＢＧＭを入れたらより良い」という発想はない。となるとこの男は「ＡＤになるために生まれてきた男」ということになるのだが、言われたところで少しも嬉しくないだろう。先にも書いたように、職種だけではなく階級もかねてしまっているからだ。

サラリーマンでいえば、君は「平社員になるために生まれてきた男だ」と言われているようなものだ。

僕個人の考えで言えば、出来ないディレクターよりも、良くないプロデューサーよりも賃金の高い**スーパーＡＤ**が居てもいいのではないかと思っている。特に少人数の現場では、その一人一人の能力が結果に大きな影響を及ぼすわけで、プロデューサーだけの能力が高いからといって良い番組になるわけでもない。

もしかしたら、普通の会社にも部長には向かないが社長に向いてる人や、取締役だけどコピーやお茶くみのセンスが抜群という人が居るのではないか。

間接的な効果も含めてその人が生み出している利益が深いと判断されれば、その役職肩書きに係わらず給料が決まるべきだと思う。判断は難しいが。

話は戻ってテレビラジオ番組のスタッフの場合、この一番下っ端の位としてのＡＤ時代に、向かない仕事に絶えられず辞めて行く人間が多いように思う。「この職場は昔からそういう風に出来ている」と言われればそれまでだが、なんか最先端の職場という意識で入ってきたセンシティブな若者が演出までたどり着く前に、ピザまんとイチゴを買ってきて怒鳴られたりするうちに去っていくのはもったいない気がする。

入試日程　C日程　　題科目名　小論文

出題趣旨

エッセイ中の「２軍の４番」と「スーパーＡＤ」の違いを、できる限りわかりやすく述べた（設問１）上で、自己の経験に即して、そのいずれかに似ていると思われる例をあげて、自分の感想を述べるように求める（設問２）問題である。

筆者の言う「スーパーＡＤ」は、番組作成の現場において、ディレクターやプロデューサーとは別の役割（ディレクターのイメージに合ったＢＧＭの選定など）を担っており、その役割を高レベルでこなすことで優れた番組の作成に多大な貢献をなしうる存在である。これに対して、「２軍の４番」は、あくまで２軍の中のトップであって、そこで能力を果たしても、１軍におけるチームの勝利（ＡＤにおける「優れた番組作成」に相当）に貢献できない存在である。このような違いを説明した上で、自己の経験から、どちらかに似た人物を想起し、それがどのような点でどちらに似ているのかを、わかりやすく述べることが求められている。